

hgu_LAB. MAGAZINE

August 2017

vol.

004

DANCER

Kentaro Hatakeyama



HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

Genius is 1% inspiration, 99% perspiration.

Thomas Edison

Kentaro Hatakeyama

畠山 健太郎

北海学園大学 経済学部 1部
経済学科3年
北海道大麻高等学校出身

江別生まれ。YOSAKOIソーランチーム「粋〜IKI〜北海学園大学」に所属。今年6月に開催された第26回YOSAKOIソーラン祭りでは「夢担ぎ—駆け抜ける想い—」という演舞を披露し、準YOSAKOIソーラン大賞を受賞。「1%のひらめきと99%の努力」という言葉を好み、最高の瞬間に向けて練習、練習の日々を送っている。



最高にきつくて、最高に楽しい 4分10秒です。

ブラックコーヒーは好きですか？ 苦手ですか？ ジェットコースターは好きですか？ 苦手ですか？
では、YOSAKOIソーランは？

世の中が二項対立で埋め尽くされる6月初旬に、彼らは境界線の上を前進しつづけます。
光の中、歓声の中、そこにしかないものがあるから。ですよね？ 畠山くん。

どのチームよりも楽しむために

——今年6月の本祭で、所属する「粋〜IKI〜」が準大賞に輝きましたね。本当におめでとうございます。ありがとうございます。去年はサークル内の事情で出場できず、悔しい思いもあったので、今年はどのチームよりも祭りを楽しみたいと思っていました。一つでも多く仲間と最高の舞台上で踊り続けるために、大賞を目指し練習にも力を入れて頑張ってきました。

——あと一歩、という結果でしたね。
はい。でもうれしかったですよ。もちろん大賞を狙っていましたが、準大賞を受賞できてうれしかったです。今回の結果は、色々な方の支えがあつての結果なので、ご支援頂いた方にはとても感謝していますし、みんなで掴んだ準大賞だと思っています。来年も期待しててください。

——YOSAKOIの審査に詳しくない人もいると思うので、大賞までの道のりを簡単に教えてください。まず、審査を希望するチームは、抽選で一次審査の10ブロックに振り分けられます。審査は土曜日の大通パレード会場で行われ、各ブロックの1位チームが日曜日のファイナルステージへ。2位のチームはセミファイナルに回り、そこで1位になればファイナルに行けます。つまりファイナルは11チームの争いになります。

——本祭では市内の各会場で踊りますが、この一次審査はやはり気合いの入りが違うんですね？

そうですね。去年の大賞チームと同じブロックに入ったので、なおさら気合いが入りました。審査結果が出る前に、そのチームの演舞がかなりよかったと聞いたので、予選突破は難しいかなと思っていたのですが、なんとかファイナルに進むことができました。

踊りつづける、ただ1つの理由

——一次審査は「パレード」、ファイナルは「ステージ」ということで、演舞の内容も違いますよね。
はい。ステージの振りを基本にして、パレードの振りをつくっていく感じです。パレードは前後100mの区間を動きながら演舞する必要があるので、体力的にはステージよりも厳しいですね。

——演舞の時間はどちらも同じ？
僕たちはどちらも4分10秒です。規定は演舞前後の移動なども含めて4分30秒なので、ギリギリまで踊る時間をつくっている感じです。最高にきつい4分10秒ですが、最高に楽しい4分10秒でもあります。

——パレードとステージ、どちらが好きですか？
お客さんが間近にいるパレードのほうが、踊っていて楽しいですね。でも、自分がYOSAKOIの魅力にハマったのは、1年生で体験したステージの演舞でした。観客席が見えないほど眩しいライトに照らされながら踊るのは、言葉にすれば「気持ちいい」なんでしょうけれど、言葉にできないような感覚で、これを味わ

いたいからYOSAKOIを続けてきたんだと思います。

——去年は、それを味わうことができなかったと。
そうですね。本祭に出場できないことがわかってから、この1年をどう過ごすべきかをみんなで話し合いました。そのなかで出てきたのが、地方演舞でお世話になった町のお祭りのお手伝いや、練習で使っている豊平川河川敷の花火大会後の清掃など、ボランティアを通して自分たちを見つめ直すという作業でした。本祭でも地方車の誘導^{じかたしゃ}などを手伝ったのですが、そこで感じたのは、裏で汗をかいてくれている人がいるからこそ、自分たちは気持ちよく踊れているんだということです。本当にありがたいことだと思いました。

——裏側を知って、なおさら今年の本祭にかける思いが強くなったんですね。
はい。年明けから本祭に向けた練習を始めましたが、本当にみんなの強い思いを感じましたね。

——春からは3年生になって、チーム内での立場も変わりましたか？
2年生から引き続きスタッフをやっていますが、うちのチームは3年生が中心になって動くので、やはり後輩たちを引っ張っていこうという思いが強くなりました。

——スタッフというのは？
全部で12人いて、役割分担をしています。代表、副代表、渉外、衣装、会計、振り、企画総務ですね。週1回のスタッフ会議など、大変な面もありますが（笑）、準大賞という結果が出て、それも報われたかなと。

不器用だっていいじゃない

畠山 萩根さんは踊りの振付をしてくれている先生で、僕たちは卓先生と呼ばせてもらっています。
萩根 はい、職業はダンスインストラクターです。
畠山 卓先生は動きがとてもスムーズで、本当にすごいです。ある日、卓先生が早送りみたいに体を動かしながら振りを覚えようとしている姿を見て、こうやって覚えるのかと感動しました。

——萩根さんから見て、畠山くんの印象は？

萩根 健太郎は、正直、不器用なんだよね。
畠山 はい。
萩根 でも、それがすべてマイナスではなく、がんばって上達していくのもYOSAKOIの魅力。1年生のころ

の姿からは想像がつかないほど成長して、みんなを引っ張る存在になったのはすごいと思っているよ。
畠山 ありがとうございます。

——踊り以外に卓先生から学んだことは？

畠山 マナーですね。あいさつ、靴の並べ方、そういう部分がしっかりしていないチームは勝ち上がれないということをずっと言われてきました。
萩根 それは僕も恩師から教えられたことですね。

——最後に、これからナイトパレードに出陣する畠山くんにエールをお願いします。

萩根 みんなを引っ張る健太郎の表情を楽しみにしています。ぜひがんばってください。
畠山 はい、ありがとうございます！

Taku Oginezawa

萩根 卓 さん

振付師（スタジオ・セイビ）

MY FAVORITE MENTOR



DANCER | KENTARO HATAKEYAMA
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY



振り落とされたら、練習、練習

—— 畠山くんは何を担当するスタッフですか？

僕は2年生からずっと「振り」です。作品をつくっていくうえで全体をまとめる係です。2年生のときに先輩からやってみないかと誘われまして。

—— ということは、踊りが上手なんですね？

んー、でも基本的には不器用なので、何回も繰り返さないと体に入ってこないタイプですね。以前に比べたらそれでも早く覚えられるようになりましたけれど、今も落とされたら何度も復習をしています。

—— 落とされたら、というと？

あ、振付の先生から新しい振りを教えてもらうことを「振り落とし」というんです。振りを落とされたら、とにかく反復ですね。1年生で入ったばかりのころは1回転のターンを何度も練習していました。顔が前を向いている時間が長くなるように、ひゅっと回ると見栄えがいいんです。でも、最初はなかなか難しくて。家の鏡の前で何度も繰り返しては、目が回って（笑）。ちょっとやってみましょうか。（ひゅっ）

—— あー、たしかにカッコいい。顔が前に残ってる！はい。このほか、下向きから顔をぎゅっと上げたり、いろんなポーズがありますけど、実際にやってみると最初は全然キレが出せないんですよ。

—— 全体のタイミングを合わせるのも大変ですよね？最初はバラバラで、何度も練習して合わせていく感じ

ですね。「ニュアンスの統一」と言ったりします。

—— いろんな用語がありそうですね。

そうですね。うちのチームの振付の先生は、ダンススタジオの方なので、ダンスの用語だと思います。僕らはそのスタジオの公演に参加して、ジャズダンスやヒップホップを踊ることもあるんですよ。

—— へえー。そっちも楽しいですか？

YOSAKOI 以外のいろんな振りを勉強すると、体の使い方がわかってくるので、そういう意味では楽しいです。でもやっぱり僕は、1回1回止まってポーズをつくったり、声を出しながら踊る YOSAKOI が好きですね。大人数で踊るのも YOSAKOI の醍醐味だと思います。

—— なるほど、団体競技のよさもあるわけですね。高校まではずっと野球をやってきましたし、仲間ががんばるのが好きなんだと思います。

チームでの経験をまちへ

—— 大学では野球を続けようとは思わなかった？ひじを故障してしまったので、本格的に野球をやるのは難しいかなと。でも何か夢中になれるものがあればいいなと思って、高校時代にいろいろ調べていたら、この大学に YOSAKOI チームがあることを知りました。もともと YOSAKOI には興味があったので、YouTube で動画を観てみたら、これが本当にすごくて。入学前からこのチームに入ることを決めていました。

—— そもそも本学を志望したのはどうして？高校時代から公務員になりたかったので、多くの公務員を輩出しているこの大学を志望しました。

—— なぜ公務員なんですか？

地元で断水が起こったとき、市役所の人が水を配ってくれたんですよ。市民のために行動をしている姿を見て、そういうふう暮らしを支えられる人になりたいと思いました。具体的にどんな仕事がしたいのかと問われれば、まだはっきりとは答えられないので、もっと勉強をして、考えを明確にしていきたいです。

—— 世話好きなタイプなんですね？

人のために何かをするのは嫌いじゃないです。今はチームのためにすべきことを考えることが多いですが、その経験を活かしながら、もっと広く、市民のために役立てるような人材になりたいと思っています。

—— ちなみに経済の学びを通して、なにか考え方が変わったりはしていますか？

たとえば、川村先生（下に登場）は労働経済が専門なんですが、賃金や労働時間などについて、自分たちのアルバイトと照らし合わせながら話してくれたりするので、そういうことに興味をもちながら働く意識が芽生えました。在学中にもっと経済について幅広く学んで知識を増やしたいですね。それがおのずと公務員試験対策にもつながっていくと思いますので。

—— そして公務員になって、YOSAKOI も続ける？はい、できれば社会人チームに入りたいです。仕事と YOSAKOI、どちらも充実した日々を過ごすのが理想ですね。草野球も始めちゃうかもしれませんが（笑）

My Favorite Teacher

踊りにも学びにも、熱が必要だ

—— 畠山くんは川村先生の講義を受けていたんですね？

畠山 はい。労働経済論という講義を。2年生ではゼミでもお世話になりました。川村先生は、僕たち学生の生活とリンクさせながら社会のさまざまな問題についてわかりやすく教えてくれるので、すごく興味をもって聞くことができます。

川村 経済学部は、この分野を学びたいという明確な目標をもって入ってくる学生ばかりではないので、学生の学びのモチベーションをいかに高めるかというのが、われわれ教員の課題なんだよね。そういう意味では、健太郎くんには自分の生活とかかわりのある労働問題に接してもらってよかったと思う。

畠山 僕は公務員志望なので、非正規公務員という官製ワーキングプア問題も気になりましたし、あとは保育園の待機児童問題。多くの保育士が必要だけど、その雇用にはいろいろな課題があって、それらの解決についてグループで考えたのが印象に残っています。

川村 健太郎くんは YOSAKOI をやっているから、グループワークのようにみんなで何かをやるのは苦手じゃないんだろうね。ところで YOSAKOI はいつまで？

畠山 今年の十月祭（大学祭）で演舞を披露して、そこで引退しようと考えています。そろそろ公務員試験の勉強もしなければならないので。

川村 そうか、踊る公務員になるんだな（笑）

畠山 （笑）

川村 公務員というと、札幌市の？
畠山 江別出身なので、江別市役所で働くことが第一志望ですね。
川村 面接では「どうしてうちを受けたんですか？」なんて聞かれるけど、さあ、どうしようか。
畠山 そこがまだ明確ではなくて…

—— そんな畠山くんにアドバイスはありますか？

川村 「地方自治体の仕事と労働組合」という、まさに公務員をめざす学生向けの講義があるので、条件があれば受けてみてほしいな。公務員になりたいのは、「給与がいいから」「安定しているから」という理由もあるとは思いますが、それだけでは本当にやりがいをもって働きつづけるのは難しい。自治体が抱えるさまざまな課題を在学中にしっかり学んでほしいと思います。たとえば、若い職員は生活保護の部署に配属されることも少なくないけれど、とすれば、上から目線の仕事ぶりになってしまいがち。でも問題の構造をきちんと把握していれば、自分に何ができるのかを真剣に考えられると思うんだ。私が江別市民だとして、健太郎くんから「自分の雇用の安定をめざして江別市の職員になりました」って言われたら、おいおいってなるよね（笑）

畠山 そうですね。自分は公務員としてどうありたいのか、そこをしっかりと考えるためにも、その講義はぜひ来年受けたいです。

川村 お待ちしています（笑）。YOSAKOI ではいろいろな人たちと熱く、濃い人間関係でつながってきたと思うけれど、就職してからも同じだよ。職場内のいろんな雇用形態の人や、公務員だとすれば民間の人とも関わっていくなかで、すべての人としっかり向き合ってほしいね。そういう力を YOSAKOI を通して養っているのだとすれば、それは喜ばしいことだと思います。まあでも、授業もしっかりな（笑）

畠山 はい（笑）

川村 健太郎くんは YOSAKOI を熱くやっているわけだけ

ど、学びや研究というのも実はすごく熱いんだよ。情熱をもって取り組んでいる。さまざまな問題に向き合い、研究者として何ができるのかを当事者の方々と一緒に考えています。
畠山 これまではどうしても YOSAKOI メインになっていましたが、これからはもっと学んで、自分の将来や地域社会のことを深く考えていきたいです。
川村 ぜひアンテナを大きく広げて、サークル以外のいろんな学生や教員とも話をして、将来に向けて熱く躍動することを期待してますよ。

Masanori Kawamura

川村 雅則
経済学部
経済学科
教授



My Favorite Shop



豊平探偵団

札幌市豊平区豊平8条9丁目3-20
090-6442-6560
11:30~14:30、18:00~翌3:00
日曜日定休

スパカツ、スパカラ、ジャストミート（豚カツorから揚げ）
いずれも並800円、大900円、特1,100円

必殺グラブラーコンボ
（9種のメニューから2品をセレクト）
並盛900円、中盛1,000円、大盛1,100円

※2017年7月現在

パスタ、豚カツ、ミートソース、 完ぺきな隊列です。

こちらはボリュームたっぷりの定食屋さんで、メニューの種類も豊富。なかでも個人的には「スパカツ」がイチオシですね。パスタの上に豚カツがどーん、そこに特製ミートソースがたっぷり。「並」でもしっかり盛られているんですが、YOSAKOIの練習終わりにお腹を空かせて来ることが多いので、いつも「大」を頼んでいます。「特」はさすがに未経験ですが（笑）。

では、いただきます。パスタをフォークでぐーっと持ち上げて、んー、やっぱりおいしいです。豚カツの代わりにから揚げが乗った「スパカラ」もあって、僕たちの間では人気二分されています。パスタがバターライスに置き換わった「ジャストミート」もおすすめてですよ。練習終わりに数人で来て、右奥のボックス席へ。注文したらちょっと喋って、それから漫画を読んだりする個人タイムに。で、料理が来たら黙々と食べる感じですよ（笑）。壁にはお客さんの写真がびっしり。先輩の写真もあったんですが、多すぎて見つけられないですね。それにしても、このカツ、最高です！

My Favorite Things



鳴子

YOSAKOI ソーラン祭りは、高知県の「よさこい祭り」と北海道の「ソーラン節」がミックスされたもの。ご存じの人も多いと思いますが、よさこい祭りの代名詞である「鳴子（なるこ）」を持って踊ることがルールの1つになっています。僕たちのチームの鳴子はしっかりした作りのもので、2個セットで1,200円ほどします。壊れづらいはずなのですが、それでも僕は初めて買った鳴子を踊りの途中で壊してしまいました。先輩から譲り受けたこの鳴子は、大切に使っていきたいですね。



チーム Tシャツ

毎年6月の本祭前に、学生合同出陣式という機会があり、この日は各チームがTシャツを着て踊ります。僕たちのチームも毎年の踊りに合わせたTシャツを新調するのですが、これは1年生のときにつくったもので、とても気に入っています。練習で着ることが多いです。



硬式野球ボール

高校の野球部で使っていたボールです。いくつか持っていますが、校名入りはこの1球だけ。自分の部屋の、よく見える場所に大切に飾っています。高校野球というのはやはり大きな思い出で、とても大切な3年間でした。たまに野球がやりたくなくてウズウズします。



ロスジェネの逆襲

池井戸 潤
ダイヤモンド社

これはドラマ『半沢直樹』の原作シリーズです。高校時代にドラマを観て、めっちゃおもしろいなと。上司にどんどん楯突くような主人公の行動はスカッとしますよね。実際にまわりにいたら大変でしょうけど(笑)。ドラマの続きが知りたくて、原作本を買うほどハマりました。



キャップ

XLARGE
B's INTERNATIONAL

このブランドは高校時代の友人が着ていて、カッコいいなと。完全に影響されて好きになりました。基本的に外ではキャップを被っていることが多いですね。後ろ向きに被るのが好きです。髪をセットしなくてもOKなのがキャップの素晴らしいところでもあります(笑)



ブラックサンダー

有楽製菓

少年野球チームの先輩が「これおいしいよ」と言って、1つくれたのがブラックサンダーとの出会い。そんな記憶が残っているほど、おいしさに感動したんですね。以来、今までずっと大好物。昼食のおにぎりやお茶をかうついでなどに、さっと手に取ってしまいます(笑)



手帳

高橋書店

スケジュール管理はスマホよりも手帳派で、ちょっとしたメモや、やることのリストは全部ここにまとめています。これで同じものが3冊目。紙面の上半分がYOSAKOIのことで、下半分はプライベートやアルバイトのこと。圧倒的に上半分が埋まっていく感じがですね(笑)



スウェット&シューズ

NIKE JORDAN
NIKE JAPAN

昔からジョーダンブランドが好きなんです。マークが本当にカッコよくて憧れていました。でもバスケットではなく野球部だったというもあり、なぜかぐっと堪えていました。高校を卒業して、野球ではなくYOSAKOIを選んだ僕は今、全力でジョーダンを身につけています。



ミクロ経済学入門

笠嶋 修次、逸見 宜義
八千代出版

ミクロ経済の講義で使った教科書です。空き教室で仲間とよくテスト勉強をするんですが、この教科書の勉強をした日のことはよく覚えてます。豊平川の打ち上げ花火が窓越しに見えて、なんだか不思議な空間に(笑)。公務員をめざして、ミクロ経済もしっかり復習したいです。